しんあい

季刊

2011年（平成23年）５月５日発行　第77号　◆編集と発行　しんあい編集部

社会福祉法人
多摩同胞会

〒183-0042 東京都府中市武蔵台１-10
TEL042−367−8801

多摩同胞会のホームページでは、ブログを毎日更新しています。
http://www.tama-dhk.or.jp/
をぜひご覧下さい

東日本大震災により被災された方々に心よりお見舞い申しあげます。
１日もはやい復興をお祈りいたします。

あっ！おいしそ～。ぱくっ（しらとり）

・特別養護老人ホーム信愛泉苑
・高齢者在宅サービスセンター
　泉苑ケアセンター
・養護老人ホーム信愛寮
・特別養護老人ホーム信愛緑苑
・府中市立特別養護老人ホームあさひ苑
・府中市立あさひ苑
　高齢者在宅サービスセンター
・特別養護老人ホームかんだ連雀
・かんだ連雀高齢者在宅サービスセンター
・千代田区立岩本町ほほえみプラザ
・子ども家庭支援センターしらとり
・母子生活支援施設白鳥寮
・母子生活支援施設網代ホームきずな
・府中市子ども家庭支援センターたっち

・社会福祉法人の実践
　～ケースに学ぶⅢ～
・先輩職員からの
　メッセージ
・施設だより
　「春よこい」

具体的な援助・サービスで解決する」ことをめざして活動しています。
地域包括支援センターの機能についてご報告します。

養護老人ホーム 信愛寮の役割

養護老人ホーム信愛寮
施設長　松﨑　哲也

信愛寮は、昭和35年、府中市武蔵台に定員27名の保護施設としてスタートし、昭和38年には最大142名の定員になりました。

その後都道開設のため、平成6年4月府中市緑町に移転の際、定員を半減した50名の養護老人ホームに都内初の30名定員の小規模特養を併設しました。この複合施設は身体が弱くなっても同じ館で養護と特養の利用者が助け合い、最後まで自分らしい生活を継続して営めるように援助することを目的としました。

平成12年に介護保険がスタートし、特養ホームは介護報酬で運営する施設に変わりましたが、養護老人ホームは従来の措置制度により運営していました。東京都内に特養は200施設以上ありますが、養護老人ホームは30余りの施設数です。

平成18年4月に老人福祉法が改正され、養護老人ホームは生活支援（衣食住）に特化した自立支援・社会復帰を目指す施設であることが明確に示され、入所要件が環境上の理由および経済的理由（低所得）にせばめられました。そして、入所者の介護は介護保険制度の訪問介護等で対応することになりました。

しかし、低所得、高齢病弱、うつ等の精神的疾患、住むところがない等の理由で在宅で生活することが困難な利用者に施設サービスを提供し、安心した自分らしい生活を営んでいただくことが養護老人ホームの本来のあるべき姿です。

事例1：家族からの虐待

90歳の女性（入所時88歳）Aさんは結婚歴が無く、長期にわたり住み込みで働いていましたが、市内に住む甥が同居を提案し都営住宅に入居しました。

甥は統合失調症で、Aさんの生活を束縛（服薬や受診の管理）し、外出、調理、トイレの使用までも制限していました。そして、精神症状が悪化して刃物などを振りかざしたため精神病院に強制入院になりました。Aさんは長年の虐待の影響で、脱水栄養失調などを起こしていたため入院をしましたが、在宅介護支援センターがかかわり、担当地区ケア会議等で検討し措置入所し現在に至っています。

事例2：ゴミ屋敷化した住居から

74歳女性（入所時71歳）Bさんは結婚歴はなし。老朽化した木造貸家で住み着いたネズミをペットとして生活していました。

生活費の多くもネズミのえさ代にあてていたが、ゴミ屋敷となり、大家からも立ち退きを迫られ、在宅介護支援センターを中心とした担当地区ケア会議等で検討し入所しました。

この方々は、要介護や要支援状態であった上に住まいが無くなったために入所につながったケースです。平成21年3月、群馬県の高齢者施設たまゆらで火災事故がおこり10人の方が亡くなりました。住むところに困っても介護度の認定がないと特養には入所できません。そういった方々が入所されていたのが「たまゆら」のような施設です。しかし、制度の外で運営されている施設には防災設備等の法令上の規制もなく痛ましい事故になりました。

養護老人ホームは高齢者にとって、なくてはならない生活の基盤を支える施設です。

25年以上続く朝の練功体操

社会福祉法人の実践
～ケースに学ぶⅢ～

多摩同胞会では、「受けた相談は３回目は養護老人ホームの役割、

制度の隙間を埋める支援センター

府中市地域包括支援センター泉苑
遠藤　乃理子

地域包括支援センターでは、地域にお住まいの高齢者が安心して暮らし続けられるよう、様々な相談を受け支援しています。泉苑は平成22年４月に「在宅介護支援センター」から「地域包括支援センター」に変わりましたが地域の身近な相談窓口であることに変わりありません。「１人１人の抱えている問題に誠意をもって向き合い支えていく」という地道な活動を、過去の相談員から代々受け継ぎ現在の支援センターをつくりあげてきました。

支援センターの相談は訪問が基本です。家庭に入ることで複雑な家族関係が見えることも多く、高齢者の支援が家族全体の安心な暮らしにつながることが大切です。

80歳の女性Mさん。精神疾患のある娘とその夫、知的障害の孫との４人家族。娘の夫は仕事で夜遅くまで不在。孫は作業所に通っています。統合失調症の娘は調子が悪いと子供の介護や家事一切ができなくなり、その時はMさんが全ての家事をこなしていました。本人も軽度の幻覚や幻聴に悩まされながらも家族のために懸命に頑張っていました。しかし徐々に家事が難しくなり、夕食の片付けが深夜０時までかかることも珍しくないという状況になったため、ヘルパーを利用するよう勧めましたが本人は頑なに拒否。私たちはこの家族を信頼関係を築きながら見守ってきました。しかし老化は進み、立っているのもやっとという状態、さらに認知症も進み家事をすることは難しくなってきました。それでもサービスに対する拒否が強いため、まずは支援センターでの通院援助を行い、人の手を借りることに慣れていただきました。

さらにこの家族は高齢者問題だけでなく複数の問題を抱えているため、娘の症状が悪化し入院が必要となれば家族の生活全体に影響します。そこで娘の夫、保健所、障害者支援課、包括支援センター等の関係機関が集まり、カンファレンスを行い、家族全体を支援する方法を模索しました。Mさんは入院する娘の代わりに孫の食事を用意したいという気持ちがありましたが、本人の体力を考慮しショートステイを利用するよう説得していきました。Mさんは納得しましたが、娘は「したくができない」と強い不安を示しました。そこでサービス利用のための通院や宿泊準備などの支援をすることにしました。

部屋全体に万年床の布団が敷いてあり、そのわきに大量に山積みされた家族全員の衣類。尿臭もあり洗ってあるかないかを相談員が匂いでかぎわけて仕分けしていきました。その様子を娘が、何をされるのかと不安な目で見つめています。相談員は娘の不安を取り除くように声をかけながら整理を進めていきました。タンスの中身などを明記しヘルパーが入っても整理しやすいように下地作りをし、何とかショートステイ利用、その後ヘルパー利用につなげていきました。

このケースでは、娘の夫が、一家の稼ぎ手であり妻や子供の問題を抱えているその重責を理解し、キーパーソンであり続けてもらうように支えていくことがMさんの支援にもつながります。家族にも支援が必要であり、本人が生活する環境を整えることも大切です。多くの課題を抱えたケースは縦割りの制度だけでは解決できません。その隙間を埋め、家族を支えていくことが私たち包括支援センターの役割ではないかと思います。

支援センターの活動の一つとして
認知症サポーター養成講座を開いています。

『先輩職員からのメッセージ』

福祉の職場は離職率が高いと言われていますが、多摩同胞会では正職員約330名のうち15年以上の勤続する者が70名以上います。今回、その中から4名に代表して後輩に伝えたいことや、仕事に対する思いなどを語ってもらいました。

支えあう日々

平成7年4月に多摩同胞会に入職し、早いもので17年目を迎えようとしています。福祉系の学校を卒業したとは言え、入職したての頃は何も分からず毎日が緊張と学びの連続でした。唯一決めていた事は、『何があっても3年間はこの仕事を続けよう』ということ。その言葉を何度も同期へ声にして伝えては、自分に言い聞かせていたようにも思います。

そんな一年目が過ぎようとした頃に書いた職員文集を今でも読み返す事があります。そこに書かれた当時の自分の言葉に『今は点でしかない一つ一つの体験が積み重なり、点が線へ、そして大きな円を描き経験として自分の身になっていけばいい』と。

16年間、正直楽しい事ばかりではなかったけれど、迷った時に支えてくれる先輩、悩んだ時に励ましてくれる同僚、そして苦しい時に笑顔で応えてくれるお年寄りがいてくれたからこそ今があるのだと感じています。

介護保険制度の導入に伴い様々な矛盾や葛藤に負けそうになることは多くなりましたが、そんな時こそ立ち止まって周りを見渡しお年寄りと向き合い皆で支え合うことが大切なのだと思います。

（あさひ苑　ホーム係長　比嘉　登美枝）

前向き

しらとりに入職した当時はトワイライトステイ等の事業が始まったばかりで、先輩職員とともにあれこれと試行錯誤をしていました。といっても就職したての私は、お迎えや食事、不慣れな低年齢のお子さんと関わるだけでもてんてこ舞いでした。

約6年後、きずなに移りました。学童を担当し、パワフルな子どもたちと一緒に過ごしました。元気な子どもたちは初開催の都内母子施設対抗ドッジボールで優勝するような、いざというときのがんばりと団結力を持っていました。

さらに3年、今度はたっちでオープニングから関わることになりました。今まで知らなかったタイプの施設ですが、1から作り上げていく過程に携わる貴重な経験をしました。ここではさらに小さなお子さんと関わることになるのですが、専門の勉強をしていない私は「もう少ししっかり子育てをしておけば役に立ったのに…」と反省したものです。

3つの施設を経験してみて、気がつくことがあります。どの職員も、利用者と一緒に前を向いているということです。無理にではなく「一緒に」がポイントです。法人の理念にもある「共感」がなければ、一緒に前を向くことはできません。

大人から赤ちゃんまで、利用者の気持ちを知り、何を求めているか、何が最善かを考えれば、その先に必ず見えるものがあると思います。

（きずな　少年指導員　小島　宗宏）

かわらないもの

平成5年あさひ苑開設の年に泉苑に入職したものの、福祉のことはほとんど何も知らずにいたので、毎日が目新しいことの連続でした。そんな日々の中で、利用者の方とのふれあいを通して特養施設は生活の場であるということを学んでいきました。

その後、介護保険が導入され、制度が次々と改正されていくなか、調理の現場も従来の調理法から新調理システムを導入し、計画生産化、そして現在の真空調理法へと試行錯誤を繰り返しながら変化を遂げてきました。新しいシステムが導入され、マニュアル化されていくほどに、よりコミュニケーションの重要性が際立ってきたと感じています。

利用者の健康を食で支えていくには、食事係だけの力では到底実現できるものではありません。介護や看護などの様々な職種の専門性があり、協働、連携しながら支えているのだと思います。その人に関わる職員で「何が必要か、何が出来るのか出来ないのか」を考えながらその人に向き合っていくことが福祉なのではないだろうかと感じています。

さまざまな変化がある中で、いろいろな部署の協力を得ながら、おいしく食べることで健康を守るという変わらない考え方のもと、これからも笑顔で食堂に来てもらえるよう取り組んでいきたいと思います。

（岩本町ほほえみプラザ
食事係神田統括係長　澄川　裕子）

想い

入職して18年目。高齢者に関わる上で避けられない事。それは多くの方々とのお別れです。今まで大勢の方々をお見送りしてきました。

お年寄りの容態が、夜勤業務中に急に悪化し、そのまま亡くなる事も多くありました。仕事を始めた当時は、数日前まで親しく話していた人が亡くなってしまうという現実は悲しく、また親族以外の死と向き合う事に対し、戸惑いの感情も強かった様に思います。

時が経ち、色々な場面を見る機会も多く有り、〝人が亡くなる〟という事実については、誤解を恐れずに言うと慣れてしまったのか、悲しいという感情よりは、その後の諸事（医師や家族への連絡など）を気にかけてしまう、業務的な感覚が強くなってきた様に感じていました。

そんな折、昨年加療中の母が亡くなりました。初めての肉親の死に対して、仕事中とは違う感覚を覚えました。それは悲しいという感情だけではない、寂しい感覚でした。失う相手が兄弟や親子、知人などで、それぞれ感じる気持ちは異なるでしょうが、親しい人が永遠に居なくなるその感覚。それを感じ、少しだけ入職当時の気持ちを思い出せた気がします。

現場は忙しく、自分の思い通りにならない事が多い中、その気持ちだけは忘れずに、お年寄りや家族の心を汲めるような仕事をしたいと思います。

（泉苑　通所係係長　傳刀　耕祐）

社会福祉法人 多摩同胞会の子育て支援

次世代育成支援対策法に基づいて、各事業所では仕事と子育ての両立を支援するための「一般事業主行動計画」を策定し、公表することが義務付けられています。

法人では、20年以上の昔より産前休暇を８週（法律では６週が義務です）とし、育児・介護休業法施行後も時短勤務や夜勤、残業の免除も小学校に就学するまでと、法令を上回る制度をつくり職員が安心して出産し、子育てできる環境を整えてきました。

今回はこの計画も第２期になりました。法人では介護や子育て支援を仕事とする職員が、さらに個々の能力を十分に発揮できるような子育て支援に取り組んで行きたいと思います。

社会福祉法人 多摩同胞会 次世代育成支援行動計画（第２期）

1．計画期間　平成22年12月1日から平成25年11月30日まで

2．目標と対策

1）計画期間内に、育児休業を男性職員が１人以上取得すること

対策：毎年度１回以上、育児・介護休業規程を含む就業規則の説明会を開催し職員への制度の理解、周知につとめる。
ホームページや季刊しんあい等により広報する

2）日曜日、祝祭日等に勤務する職員のための保育を実施する

対策：平成23年 6 月　職員へのニーズ調査実施
平成23年 8 月　法制度の情報収集、事業内容の検討
平成23年12月　理事会への提案
平成24年 2 月　行政届け出、事業開始準備
平成24年 4 月　保育事業の開始

3）職員の子ども等の職場見学会を開催する

対策：毎月、事業所の持ち回りで法人セミナーを開催する

施設だより

春よこい

春は何か新しいことが始まったりと変化の多い季節。そんな中、各施設より心温まるお便りが届きました。

たっち

春のあいさつ

この冬は、とても寒くて本当に春が来るのが待ち遠しかったですね。厚手のコートに何枚もの重ね着、手袋にマフラーと重装備の防寒でひろばに来てくださったお母さんやお子さんたち。中には、スキーに行くような格好で来てくれたお子さんも。入館に必要な「たっちパス」まで冷えていました。北風にあたった真っ赤なほっぺたに「お外は寒かったね」と声をかけていました。

そして、やっとやっと暖かくなり、いつの間にか厚手のコート姿は消え、着ている服の枚数も減り、手袋やマフラーも使わなくなり、身軽になったいで立ち。中には靴下をはかないで元気にやってくるお子さんまで出現しました。冬の間、靴箱を占領していたブーツに替わってスニーカーやサンダルが並びます。

にこにこ笑顔でひろばにやってくるお子さんたちの顔が、あたたかい春のように優しく柔らかくなっています。

「あたたかでいい日ですね」こんなあいさつが、寒がりの私は大好きです。外出しやすい気候になります。春風と一緒にたくさんのかわいい笑顔を見せに、どうぞひろばにお立ち寄りください。お待ちしております。

（たっち　看護師　伊藤　徳子）

泉苑

病は気から、花粉症は気持ちから？

マスクの中で鼻水をすすり、目をウルウルしながらくしゃみを連発。そんな職員が多数みられる中、泉苑で過ごされている方々は…不思議とほとんど花粉症で悩んでいるようすがないのです。若年層の花粉症患者が増えてきているというのに謎は深まるばかりです。

花粉症は、食生活の変化や大気汚染などのいわゆる現代病が要因という説や、免疫力の問題であるなどのいろいろな原因があるようです。みなさんにお聞きすると、

「戦争などで大変な中で暮らしてきたから、そんなので悩んでいる人なんていなかったわ。」

「昔は今みたいに贅沢なご飯はなかったからねぇ。」

戦争の苦しい生活の中で必死に強く生きてきたから花粉症という病気になんてならないということでしょうか。

「そんな病気にはならないから長生きできるのよ！」

「私たちはあなたたちと違って強いから、花粉もよりつかないのよ！」

「そんなの気にしたことないからねぇ。」

長生きしていると不思議な力が備わるのでしょうか。

病は気からといいますが、私も「花粉症なんかには負けない！」と大先輩たちに見習って、頑張っていかなければと思います。

（泉苑　介護員　井坪　亮）

岩本町

お花見

毎月一回デイサービスではおやつをつくっています。

4月は花見だんごです。

おやつ作りは大人気で、白玉粉をこねながら昔話に花が咲きます。

「今くらいの時期になるとよくヨモギを摘んでお餅を作ったよ」

「うちのほうではヨモギをもち草って言ってね～」

「手間がかかって今じゃ全然つくらないよ」

皆さんとお話をしながらピンク・緑・白、キレイに花見だんごができあがり大満足。

お花見の季節にもなり気分はもう最高。

「待ちに待っていた春。近くの公園へお弁当を持って早く出かけたいわ。近所でとっても綺麗な桜の穴場があるのよ～」

お団子を食べながら、春を満喫しました。

「私、春が一番好きです!!桜の木のそばで読書するのが好きなのよ」

春の話題はこころを暖かくしてくれますね。

（岩本町ほほえみプラザ　介護員　清水　香那）

しらとり

成長・巣立ちの春

♪いつのことだか　思い出してごらん　あんなこと　こんなこと　あったでしょ　うれしかったこと　おもしろかったこと　いつになっても忘れない♪

（増子とし作詞・本多鉄麿作曲）

歌のとおり、あんなこと、こんなことあった一年。子どもたちの成長はいつもながら目を見張るものがあります。

お母さんに抱かれていたあの子が寝返り、お座りが出来るようになり、人見知りまで始まって・・・。ハイハイ、つかまり立ちのあの子がたっち、よちよち歩きをしています。そして、よちよち歩きをしていたあの子が、とっとっとっと走ってる!

子どもの成長には励まされ、感動させられるばかりです。大きくなったお兄ちゃん、お姉ちゃん達それぞれが保育園、幼稚園へと巣立ちます。

3月最後のオープンルームで私たちスタッフはこれからも心身ともに大～きく大～きく成長して欲しいと願いながら、笑顔で見送ります。

（子ども家庭支援センターしらとり　保育士　梶　三恵子）

緑　苑

こころの春

まだ北からの冷たい風が吹く通勤中、モノクロの風景の中からふっとピンク色の鮮やかな梅の花を見かけるようになります。春もすぐそばまで来ていると実感し、寒さが苦手な私は「春よ来い。」と叫びたい気持ちになります。

ここ緑苑の庭にある梅の木は何処よりも開花が早く、ひときわ目立っています。

そして、朝晩の日も延び始め暖かくなる頃に、ご利用者と天気の良い日を見つけては、春の訪れを感じて頂くために苑庭やここ緑町付近にある府中の森公園に観梅に行きます。

春の日差しを浴びて梅の花を眺めていると、「綺麗に咲いているね。」とご利用者の普段とはまた違った笑顔や表情を見る事ができます。私達職員もホット心温まる時間を過ごします。

（緑苑　介護員　柾谷　光）

あさひ苑

春を感じた瞬間

春は緑が芽吹き、花咲く季節です。

私は花粉症なのですが、この季節が大好きで、心がワクワクするものです。

ところが、今年は3月に大きな天災と、冬のような寒さの日が多く、なかなか暖かくならないため、お花見をする気持ちになれませんでした。

でもそんなある日、利用者さんのお宅に向っている道中、見上げた空に桜の花が目に飛び込んできました。なんと早咲きのピンクの桜が咲いていたのです。

毎年一番に花を見せてくれる桜の木です。訪問したお宅でその話をすると、利用者の顔に笑顔がこぼれました。

「花」からは「癒しの力」が出ているそうです。

色々なことが起きたとしても、植物を見ることで、一瞬心が和み、元気をもらえ、植物からもらえる「パワー」を実感しました。

余裕がないと植物を見ることがありませんが、少し心に余裕を持って植物を見て、和める時を利用者さんと一緒に作っていけたらと思いました。

（あさひ苑ホームヘルパー　鮫島　敦子）

きずな

入学

今年の春、きずなでは、2名の新1年生が誕生しました。小さい体で、新しいランドセルをうれしそうに背負っています。

1年生になり施設内保育から学童へ来る日はとても緊張していますが、すぐに慣れてしまいます。「ひらがな書けるよ！」と自慢気に自分の名前を書いて見せてくれます。まだ文字に慣れていないようで鏡文字になってしまうこともありますが、このやる気を伸ばしてあげたいと思います。2年生は初めて後輩ができ、少しお兄さんお姉さんになり、1年生に学童の事を教えている姿に成長を感じます。

これから沢山学童でさまざまな経験を通して学び、私自身も子ども達と一緒に成長していきたいと思います。

（きずな　母子指導員　紫野　久子）

連雀

ポカポカ

連雀のリビングには大きな窓ガラスがあります。冬はその窓に近いと冷気が感じられて寒いですが、春に近づくにつれて冷気から暖かいポカポカの日差しを浴びるのに最高な場所となります。ご利用者のTさんは、窓側の席に座っており日差しを浴びうたた寝をされています。声をかけると…「おはようございます。」と、とても活気ある受け答えをして下さいます。それから、話し出すと止まらなくなり急に「あなたは、とてもいい人よ。」と。Tさんからそのようなことを言われるとなんだかよく分からなくても嬉しく思えます。春の暖かいポカポカの日差しが差し込むなかTさんの言葉で心もポカポカになる春の陽気です。私もTさんを見習って心をポカポカにするような言葉を言えるようになりたいものです。

（かんだ連雀　介護員　藤原　伸恵）

ニュース

平成23年4月1日からの変更のご案内

東京都網代ホームきずなは東京都から法人への移譲により母子生活支援施設「網代ホームきずな」へ名称を変更しました。

また、DV被害の増加等による緊急一時保護のニーズに対応するため、入所定員も以下のとおり変更することになりました。

入所　35世帯から30世帯へ

緊急一時保護　5世帯から10世帯へ

府中市立あさひ苑居宅介護支援センターは、府中市立より法人事業へ変更となり、「府中市あさひ苑居宅介護支援事業所」となりました。事業運営やケアマネジャーはこれまで通りの担当ですので、よろしくお願いいたします。

私たちケアマネがお手伝いいたします

御寄贈・御寄付ありがとうございます（敬称を省略させていただきます）

天野恵美子　伊藤忠テクノソリューションズ株式会社　伊東直子　大沢良三　沖藤典子　小野要次郎　カーブスフードドライブ　勝尾恵理子　株式会社ウテナ　株式会社キッズシティージャパン　株式会社こども英会話のミネルヴァ　株式会社サンリオエンターテイメント　株式会社ディエスジャパン　株式会社ニトリ　公益財団法人賓生堂社会福祉事業財団　栗谷貴美人　株式会社サンドラック　浄土宗東京教区青年会会長成田淳教　丹宗勝子　出塚水産株式会社　天理教（東京地区婦人会）東京都立誠明学園　東神田町会　廣池利邦　まきた農園　渡部重来

（2011年1月～2011年3月）

ボランティアの御協力ありがとうございます（敬称を省略させていただきます）

会田久枝　青山幸子　赤桃好子　浅野貞子　朝日保育所　網代恵美　網代弘子　あすなろ会　有馬政子　有本陽子　飯塚喜玄子　井口イマ　池島敦子　囲碁を楽しむ会　石井忠男　石井宏　石井美保子　石坂友子　石坂勝世　石澤圭子　市川アイ子　市川知子　伊藤うめ子　伊藤徳三郎　伊東富美子　井上真左子　井上陽子　井踏世津子　岩佐和栄　岩崎順　岩崎敏信　上杉朋美　上田悦子　上野玲子　植松惠美子　植松八千代　魚川桂子　鵜澤シヅ　内堀美喜　梅原薫　梅原光洋　江口亜津子　海老原志づ子　遠藤伊代　遠藤豊子　遠藤みつよ　遠藤陽子　大久保峯子　大倉弘子　大島庸子　大竹義昭　大塚沙恵　大野典子　岡崎美知代　緒方シゲ子　岡田基子　岡野玲子　岡裕子　小川健治　小熊美和子　奥山亜子　奥山チヤ子　小倉富子　小倉道子　オコサの会　尾崎節子　尾崎紘之　尾崎ヨシ子　御野礼子　折田浩一　海江田紀久子　柿本シヅ江　柿本純子　笠間豊子　鹿島千重子　梶山アサミ　柏山和子　片桐キミ子　片山貴美子　カットサロンアベ　加藤紀久代　加藤静　加藤芙美子　加藤洋子　加藤暎太　金澤静江　金澤富久子　金子武仁　上沢美和子　ガリバーインターナショナル　川上満寿美　川崎綾子　川邊明子　河本智恵　神崎佐和子　木崎恭子　北村よしこ　木村幸子　木森哲　久保田麿耶子　倉地七重　栗原宏子　桑原栢子　弦間まさ　小石暁子　小出晨一　小出由美子　小岩井雅人　河野トシヨ　甲野真弓　小島ユミ子　小島百合子　小菅よし江　後藤寿枝　後藤祐輝　コニカミノルタ　小林真弓　小林美代子　小柳小学校ブラスバンド部　是永美代子　紺野和子　今野幸子　斎藤孝子　酒井和子　坂本越子　佐久間桂子　櫻井正治　桜山健　佐々木真由紀　佐藤秋子　佐藤英子　佐藤公子　佐藤恵似子　佐藤敬子　佐藤妙子　佐藤なか子　佐藤初江　佐野田鶴子　澤良子　塩澤佳津子　塩澤千鶴　重田文子　重田美由紀　品田啓子　芝辻義治　島田たず　嶋野真理子　清水文枝　清水美佐子　下江美鈴　下中恵美子　下宏子　十べえお話の会　庄山早希　進藤サエ子　進藤瑾子　杉本節子　杉山恵子　鈴木好枝　鈴木嘉子　スターバックスコーヒー　瀬戸貞子　浅間の森ハンドベルの集い　泉笑会　薗田澄子　高井汪子　高久承美　高澤和美　高鍋恵子　鷹野榮子　高橋恭子　高橋ちよ子　田口裕香　竹内由美子　竹松ふく　田代郁子　辰本ケイコ　堅山あかり　田中久美子　田中幸子　田中多佳子　田中智加子　田中翠　田部美智子　玉田祥子　丹野由紀子　千葉芳子　土屋和子　土屋とき枝　角田洋子　寺村京子　戸井田清子　戸井田紀子　東郷實枝子　戸谷伸一郎　栃谷さき　富田和代　冨田秀子　豊永昌子　永井イエ子　中里良太　中下秀子　中嶋永子　長島広美　永野雄大　中村紀久子　中村清美　中村フサ子　中村美佐江　中村恭俊　中山康　中山雍子　西久保長子　西宮智恵子　西村珠美　西山京子　二宮澄子　根岸路子　野口春美　野坂昭弘　野坂いく世　萩原昭子　萩原八枝　橋場昭　橋本巌　橋本恵子　長谷川宣子　羽鳥みのる　濱田真理奈　早川洋子　林由美子　羽山直子　原恭子　原田園彦　原田康子　原田良子　樋口淳子　樋口雅子　樋口よし子　肥後佳江　尾藤智子　平泉順子　平澤みどり　平田数子　広木きく江　船岡栄子　舟久保良子　舟見三佐子　ふれあいクラブ浅間　星川美津子　星野ユキエ　星野若佐　堀田武三郎　ボディーショップ　堀切重明　本田純子　前田宗治　牧内ヤス子　政所優季　松浦良枝　松尾和枝　松川友樹　松澤通子　松下朗　松下朋子　松下葉子　松田恵子　松野アイ　松村敬子　松本宣恭　三坂和子　Mrマック　水谷静江　三井淑子　三輪孝子　壬生みつ子　宮崎清子　宮下美智子　宮田由絵　明神淑恵　明神治子　武蔵台御囃子連　武蔵台小学校　村井福子　村野豊子　目々澤美智子　モダンバレエアリス　百瀬洋子　森田珠恵　森近恵梨子　森満隆文　森本憲　森玲子　森脇数子　八重の会　谷貝祥子　矢島道子　山下優子　山田一丸　山田佳津江　山田ケイ子　山田順子　山本峯子　ゆうかファミリー　横山純子　吉川孝一　吉田育子　吉田千鶴子　吉田恒雄　吉田陸子　吉村博子　米山秀子　るりまつりの会　脇山令子　渡辺勇　渡辺勝征　渡辺キク　渡辺久代　渡辺秀雄　渡邊弘子　渡辺守　渡辺光枝　和田都

（2011年1月～2011年3月）

編集後記

暖かく柔らかい春の空気のような気持ちで、23年度を過ごしたいです。

（たっち　嶋田　歩）

きずなでは今年の春、出会いと別れが沢山ありました。新しい出会いを大切にしていきたいです。

（きずな　紫野久子）

暖かい季節になりました。花粉と共存しながら春を満喫しようと思います。

（しらとり　川崎悠子）

華やかな色に包まれる春は大好きです。これで花粉がなければもっといいのですが…。

（あさひ苑　伊東裕子）

苦手な冬が去り、暖かい清々しい季節がやってきて、ウキウキの毎日です。

（あさひ苑　長峰茂子）

編集委員になって1年が経ち、発行するのは本当に大変な事なんだと学んだ年でした。

（岩本町　谷川　蘭）

花が咲き前向きな気持ちになる季節になりました。今年度も成長していけるように頑張りたいと思います。

（泉苑　親泊美輝子）

季節は春だというのに人生の春は…。毎年春に期待して気がつけばまた春に…。

（泉苑　中島雅之）

春に生まれたので、春が一番好きな季節です。編集委員で学んだ事を今後に活かしていきたいです。

（緑苑　大沢清佳）

春になると新しいことをしたくなります。フレッシュな気持ちで過ごしていきたいです。

（かんだ連雀　永田めぐみ）

異動後初の年度代え業務にてんてこまいでしたが、無事乗り切る事ができました。

（事務局　冠　寿枝）

4月1日の辞令交付式で気持ちをあらたにしました。今年度もしんあいをよろしくお願いします。

（編集長　上野　廣美）

介護に関するご相談は無料ダイヤルで！

●泉苑
0120－6540－24
老後支援24時間

●あさひ苑
0120－2942－24
福祉にっこり24時間

多摩同胞会のホームページを携帯でもどうぞ！